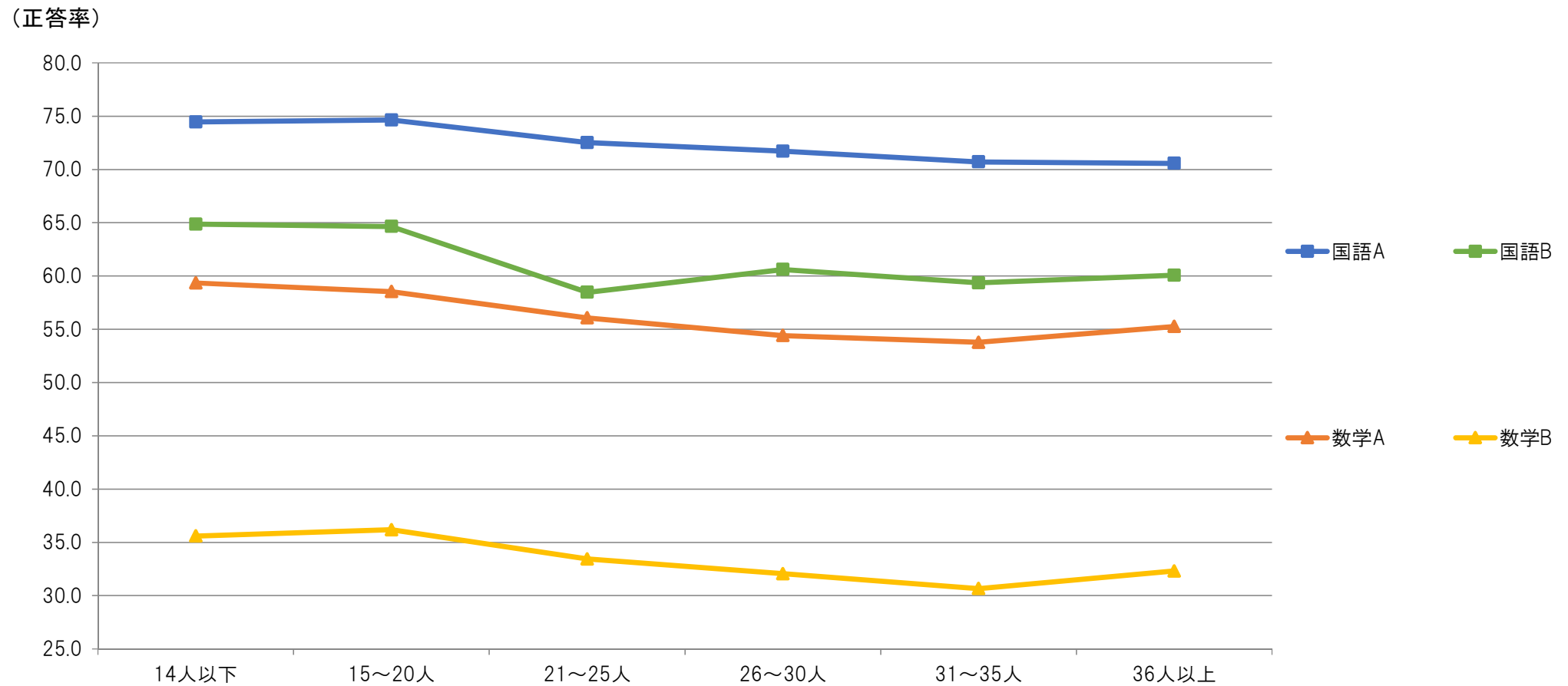


少人数学級による効果等について

我が国における学級規模に関する研究事例

不利な家庭環境に置かれた児童生徒が数多く在籍する学校においては、学級規模が小さいほど正答率が高くなる傾向

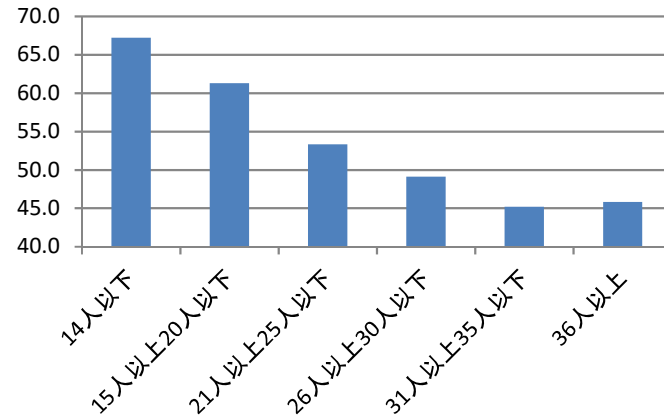
学級規模別 教科平均正答率（中学校）
（不利な家庭環境の児童生徒が数多く在籍する学校（lowest SES））



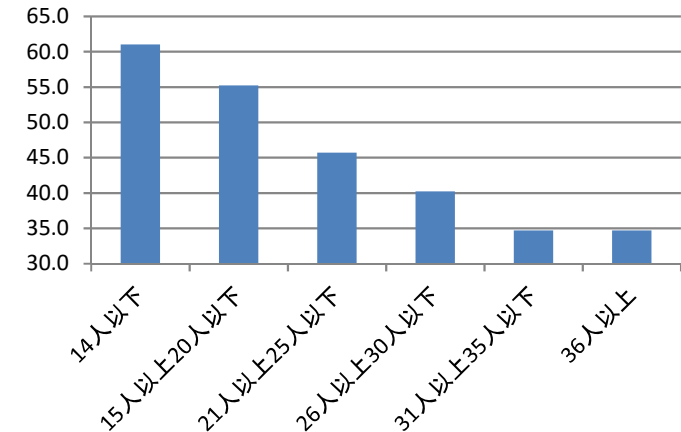
我が国における学級規模に関する研究事例

学級規模が小さいほど、①学習規律・授業態度が良い、②授業内容が高まる、③学習意欲が高まる傾向

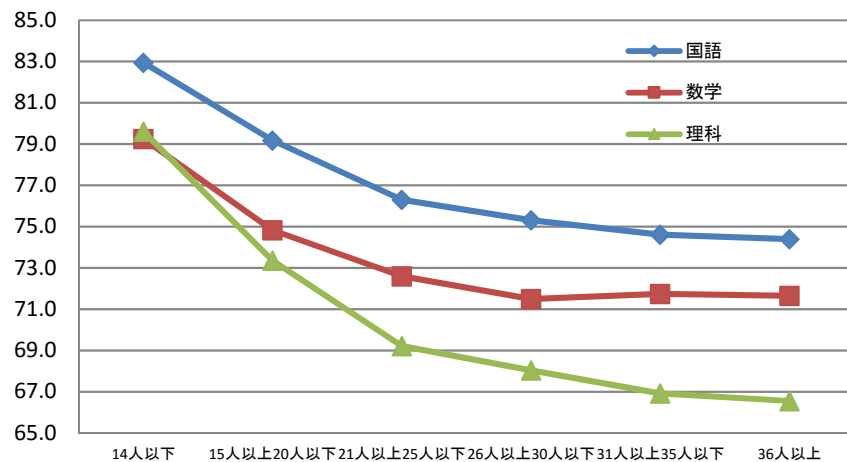
授業中の私語が少なく、生徒が落ち着いている学校の割合



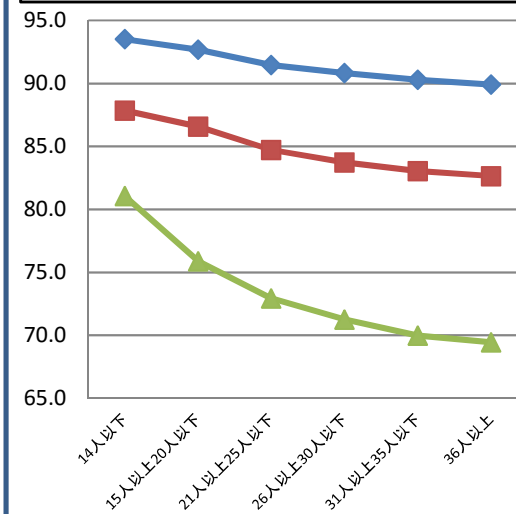
生徒が礼儀正しい学校の割合



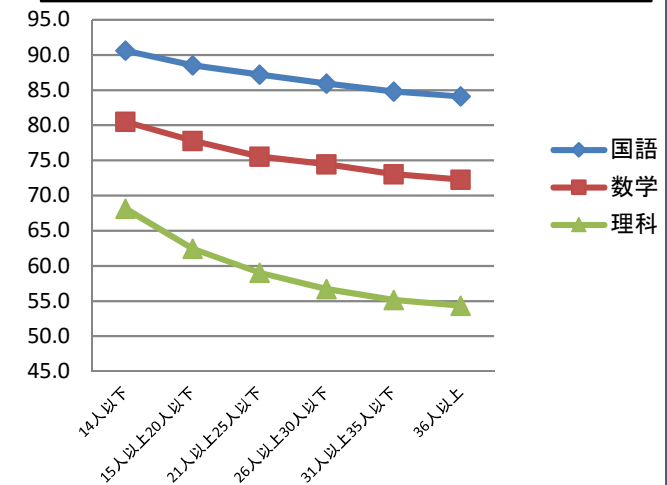
授業内容がよく分かると答えた生徒の割合



勉強は大切だと思う生徒の割合



学習したことが将来社会で役立つと考える生徒の割合



＜少人数学級の効果＞

- ✓児童生徒と教員が接する時間を多く確保できる。
- ✓児童一人ひとりの状況を把握しやすい。
- ✓教員の負担軽減にもつながっている。
- ✓学校生活において落ち着いた生活を送れている。

＜大規模学級のデメリット＞

- ✓一人の教員が受けもつ児童生徒の人数が多いため、負担が大きい。
- ✓大人数が不登校の「壁」にもなっていることが顕在化。

＜少人数学級の必要性＞

- ✓感染症対応を踏まえ、学びを保障するとともに、個別最適な学びを実現することが重要。
- ✓1人1台端末環境の下での一人一人に応じた個別最適な学びや、多様な学習活動に対応する環境の整備が急務。
- ✓通常学級に籍を置く特別な支援を要する子が増加。